

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢創造」の教育力と確かな進路実現力を持つリーディング工科高校
1 基本的な生活習慣の確立を支援し、生徒一人ひとりを大切にして、個に応じたきめ細かな指導を行い、今工生としての誇りを醸成し、規律ある安心・安全な学校づくりを推進する。
2 「持続可能な社会の担い手」となれるよう、将来を見据えた様々な資格取得を促す。
3 「令和の学びのスタンダード」の実現を踏まえ、より効果的な教育活動のため ICT を活用するとともに、STEAM 教育の手法を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを推進し、PBL 教育により生徒の思考力と創造力をはぐくみ、ものづくりを支える人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成
(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善の取組み。
ア 授業見学を奨励し、公開授業・研究授業・授業アンケート等を活用し、授業改善に取り組む。
令和3年度、普通教室・展開教室（22 教室）にプロジェクターを設置した。授業での ICT を活用した主体的・対話的な学びの実現について推進し、学力の向上を図る。
イ 教育産業の基礎学力調査を実施し、各学年の学習状況と経年変化を把握し、学習指導の向上を図る。
※ 教員の年間授業見学の平均回数を令和7年度には8回にする（R2 未集計,R3 6.6回,R4 6.7回）。
※ 教員向け学校教育自己診断の設問 35「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。」の肯定率を令和7年度には80%にする（R2 26.0%,R3 66.7%,R4 72.9%）。
※ 授業アンケートの質問5（教材活用）結果の2回平均を令和7年度には3.55にする（R2 3.36,R3 3.47,R4 3.46）。
※ 教員向け学校教育自己診断の設問 16「学習指導や教材について精選・工夫を行っている。」の肯定率を令和7年度には94%にする（R2 79.6%,R3 91.9%,R4 89.6%）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 25「授業中の態度は良好である。」の肯定率を令和7年度には90%にする（R2 83.7%,R3 86.0%,R4 84.1%）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 23「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。」の肯定率を令和7年度には82%にする（R2 72.7%,R3 74.9%,R4 76.3%）。
※ 基礎学力調査における全学年平均（1, 2年2回、3年1回）のGTZ 平均値(国数英)のC1 ランク以上を令和7年度には48%にする（R2 全学年未実施,R3 48.3% [全学年1回] ,R4 44.4%）。
(2) 工科高校の特徴を生かした授業により、生徒の育成を図る。
ア PBL（課題解決型学習）手法を取り入れた学習を1年「キャリアデザイン」、2年「総合的な探究の時間」、3年「課題研究」で行い、課題を解決していく過程で様々な能力を育成する。
イ 各系課題研究発表会及び合同課題研究発表会を実施する。
※ 授業アンケートの質問9（生徒意識2）[知識・技術の習得] 結果の2回平均を令和7年度には1年「キャリアデザイン」は3.45（R2 3.44,R3 3.32,R4 3.44）、2年「総合的な探究の時間」は3.40（R2 「課題研究」代替で開設せず,R3 3.31,R4 3.30）、3年「課題研究」は3.65（R2 ,R3 PBL 手法では未実施,R4 3.76）にする。
※ 授業アンケートの質問1～9の2回平均を令和7年度には1年「キャリアデザイン」は3.55（R2 3.49,R3 3.49,R4 3.54）、2年「総合的な探究の時間」は3.45（R2 「課題研究」代替で開設せず,R3 3.40,R4 3.41）、3年「課題研究」は3.65（R2 ,R3 PBL 手法では未実施,R4 3.71）にする。
※ 合同課題研究発表会の生徒アンケート肯定率を令和7年度には75%にする（R2 ,R3 とも 中止【参考：H29 70.9%,H30 72.2%】,R4 28.9%）。
2 夢と志を持つ生徒の育成
(1) 豊かでたくましい人間性の育成。
ア いじめ対応や教育相談体制の充実を図り、生徒の支援を行う。
イ あらゆる教育活動において人権教育を推進し、生徒の育成を図る。
ウ 生徒に基本的な生活習慣であるマナーの向上とルールを厳守させ、あいさつの励行や遅刻の減少を推進し、中退防止に努める。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 22「いじめをなくし、防止しようとしている。」の肯定率を令和7年度には90%にする（R2 84.3%,R3 86.7%,R4 85.6%）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 16「保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率を令和7年度には62%にする（R2 54.2%,R3 52.0%,R4 59.2%）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 1「学校生活は満足している。」の肯定率を令和7年度には94%にする（R2 87.8%,R3 89.9%,R4 86.2%）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 21「人権の大切さを学ぶ機会がある。」の肯定率を令和7年度には88%にする（R2 78.2%,R3 83.6%,R4 82.6%）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 17「校内では規則・ルールが守られている。」の肯定率を令和7年度には96%にする（R2 88.0%,R3 93.1%,R4 91.4%）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 26「校内では挨拶がかわされている。」の肯定率を令和7年度には98%にする（R2 93.9%,R3 96.8%,R4 94.8%）。
※ 遅刻件数を令和7年度には400 件以下にする（R2 493 件,R3 376 件,R4 448 件）。
※ 中退率を令和7年度には0.4%以下にする（R2 0.14%,R3 0.49%,R4 1.03%）。
※ 保護者向け学校教育自己診断の設問 1「今工に入学させて良かった。」の肯定率を令和7年度には98%にする（R2 97.5%,R3 94.8%,R4 96.9%）。
※ 保護者向け学校教育自己診断の設問 3「今工は保護者の願いにこたえている。」の肯定率を令和7年度には94%にする（R2 90.1%,R3 87.3%,R4 91.3%）。
(2) 生徒の自己実現に向けた支援を図る。
ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア・パスポートの活用も含めてキャリア教育・職業教育の充実を図るとともに、様々な資格に挑戦できるよう、日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。
イ きめ細かな進路指導を行い、就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図る。
ウ 卒業3年後の離職率調査を継続し、就職指導を充実させる。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 28「今工生であることに誇りを持っている。」の肯定率を令和7年度には82%にする（R2 76.6%,R3 78.1%,R4 73.0%）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 29「平日の授業以外での学習の時間はどれくらいですか（補習・塾等含む）。」の1時間以上を令和7年度には28%にする（R2 22.2%,R3 22.2%,R4 19.9%）。
※ 資格取得総数を令和7年度には560 件にする（R2 453 件,R3 549 件,R4 543 件）。
※ 3年生のSPI テストの総合点を令和7年度には65 点にする（R2 58.7 点,R3 62.4 点,R4 63.5 点）。
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問 13「進路の情報をよく知らせてくれる。」の肯定率を令和7年度には96%にする（R2 91.7%,R3 93.4%,R4 91.2%）。
※ 就職一次内定率85%以上を目標とする（R2 88.5%,R3 78.9%,R4 91.1%）。
※ 進路実現度100%（就職率・進学率）を目標とする（R2 98.1%(99.0%・95.5%),R3 99.6%(99.4%・100%) R4 98.0%(99.3%・94.8%)）。
※ 離職率25%以下を目標とする（R2 [H29.3 卒] 31.9%(全系調査せず),R3 [H30.3 卒] 19.1%,R4 [H31.3 卒] 20.4%）。
3 安全安心で魅力ある学校づくり
(1) 工科高校の魅力を発信し、志願者の安定的確保を図る。

ア 出前授業や地域連携等を積極的に行い、広報活動に努める。	
イ 中学校訪問や学校説明会の充実を図り、工科高校の魅力発信に努める。	
ウ 入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。	
※ 出前授業や地域連携等を令和7年度には13回以上参加する（R2 8回,R3 11回,R4 14回）。	
※ 生徒の出身中学校訪問を令和7年度には35名にする（R2 コロナ禍で中止,R3 20名,R4 25名）。	
※ 教員の中学校訪問を令和7年度には60校にする（R2 30校,R3 45校,R4 34校）。	
※ 学校説明会を令和7年度には35回以上参加・実施する（R2 1回,R3 37回,R4 34回）。	
※ 生徒向け学校教育自己診断の設問27「校内では、清掃がいきとどいている。」の肯定率を令和7年度には86%にする（R2 72.9%,R3 76.5%,R4 83.1%）。	
※ 教員向け学校教育自己診断の設問27「この学校では、清掃がいきとどいている。」の肯定率を令和7年度には86%にする（R2 50.0%,R3 62.5% R4 83.3%）。	
※ 全体の志願者倍率（全体〔総合募集・工学系〕）を、毎年1倍以上確保する（R3入試 0.83倍〔0.76倍・1.20倍〕,R4入試 1.00倍〔1.03倍・0.83倍〕,R5入試 0.96倍〔0.94倍・1.06倍〕）。	
(2) 生徒の潜在能力を高め、部活動を含めた様々な大会で成果を出し、近畿大会や全国大会で上位入賞をめざす。	
ア 部活動加入を推奨し、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。	
イ 課題研究や部活動等の大会を通じて、上位入賞をめざす。	
※ 部活動加入率を令和7年度には63%以上にする（R2 62.8%,R3 55.0%,R4 57.8%）。	
※ 全工協会のコンテストや部活動等で近畿大会・全国大会へ出展・出場して上位入賞をめざす（R2 陸上競技部・水泳部,R3 陸上競技部・水泳部・日本拳法部・放送部・鉄道研究部・山岳スキー部,R4 グラフィックデザイン系・陸上競技部・日本拳法部・放送部・鉄道研究部・山岳スキー部）。	
(3) PTA や保護者からの要望を踏まえて、情報発信を含めて改善を図る。	
※ 保護者向け学校教育自己診断のR5設問〔新設〕「今工は、保護者に対して必要な情報を提供している。」の肯定率を令和7年度には88%にする（R2～R4 未実施）。	
4 働き方改革の推進	
(1) 「より働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェック結果を踏まえて安全衛生委員会で議論を行い、改善策は図っていく。	
※ ストレスチェック結果における「仕事の量的負担・コントロール度、職場のサポート、総合健康リスク」を、毎年基準値（100、100、100）以下を目標にする（R2 104、109、113,R3 102、109、111,R4 99、100、99）。	
(2) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。	
※ 在校等時間管理に努め、時間外勤務者のうち月80時間以上を令和7年度には5名以内に（在校等時間外はR3から本格実施,R3 10名,R4 9名【参考：従来の時間外集計ではR2 11名,R3 9名,R4 5名】）。	
※ 教員の年間1人当たり平均の在校等時間外を毎年360時間以内に抑制する（在校等時間外はR3から本格実施,R3 327.6時間,R4 334.3時間【参考：従来の時間外集計ではR2 268.5時間,R3 276.7時間,R4 277.5時間】）。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R4年度値〕	自己評価
1  確かな学力の育成	(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善の取組み ア 授業改善と授業のICT化による学力向上	ア・授業見学により自身の指導方法等の改善を図る（回数は自己申告票の目標設定面談で確認）。 ・授業見学の機会を促進する。  ・教材活用にICT機器の利用を推奨し、授業アンケート結果の向上を図る。 ・各教科で授業アンケート結果を検証した結果を基に、PDCAサイクルによる向上を図る。  ・様々な機会を通じて授業態度について啓発を行い、向上を図る。  ・各教科でICT機器を活用して発表するなどの場面を計画・実施し、向上を図る。	ア・教員の年間授業見学の平均回数7回[6.7回]  ・教員向け学校教育自己診断結果の「授業見学への機会」への肯定率75%[72.9%] ・授業アンケート質問5(教材活用)結果の2回平均3.50[3.46] ・教員向け学校教育自己診断結果の「指導・教材の工夫等」への肯定率92%[89.6%] ・生徒向け学校教育自己診断結果の「授業態度」への肯定率88%[84.1%] ・生徒向け学校教育自己診断結果の「考えのまとめ、発表の機会」への肯定率78%[76.3%]	
	イ 基礎学力調査の学習状況と経年変化による指導向上	イ・国数英の基礎学力調査結果を教科で検討し、課題を踏まえて学習指導の向上を図る。	イ・基礎学力調査の全学年平均C1ランク以上46%[44.4%]	
	(2)工科高校の特徴ある授業による生徒育成 ア PBL手法を取り入れた学習による能力の育成	ア・PBL手法を取り入れた「キャリアデザイン」、「総合的な探究の時間」、「課題研究」では、生徒の知識・技術の習得を図る。	ア・授業アンケート質問9(生徒意識2)[知識・技術の習得]結果の2回平均 1年「キャリアデザイン」3.45[3.44] 2年「総合的な探究の時間」3.35[3.30] 3年「課題研究」3.60[3.76]	

府立今宮工科高等学校

	イ 課題研究発表会の実施	<div>・PBL手法を取り入れた「キャリアデザイン」、「総合的な探究の時間」、「課題研究」の授業アンケート結果を踏まえ、手法や指導書をブラッシュアップし、向上を図る。</div> <div>イ・各系・合同の課題研究発表会を実施する。</div>	<div>・授業アンケート質問１～９の２回平均 １年「キャリアデザイン」3.55[3.54] ２年「総合的な探究の時間」3.42[3.41] ３年「課題研究」3.60[3.71] イ・合同課題研究発表会のオンライン映像の見やすさに対する肯定率73%[28.9%]</div>	
2 夢と志を持つ生徒の育成	<div>（１）豊かでたくましい人間性の育成 ア いじめ対応や教育相談体制の充実</div> <div>イ 人権教育の推進</div> <div>ウ 基本的な生活習慣と中退防止</div> <div>（２）生徒の自己実現への支援 ア キャリア教育・職業教育の推進</div> <div>イ 進路指導の充実と進路実現</div> <div>ウ 離職率調査と就職指導</div>	<div>ア・年２回のいじめアンケート実施や教員への相談を行うよう促し、いじめ案件は迅速な対応を行う。 ・担任以外に各クラスのアシスト教員２名が支援できる体制づくりと相談室の啓発を行う。  ・様々な機会を通じて生徒から学校生活に関して意見を聴取し、改善等の向上を図る。</div> <div>イ・様々な機会を通じて人権教育の啓発を行い、生徒の育成を図る。</div> <div>ウ・様々な機会を通じてマナー・ルールの厳守を促し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。  ・様々な機会を通じてあいさつの励行を促し、人としての礼儀を身に付けさせる。  ・様々な機会を通じて遅刻の減少を促し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・常に遅刻・欠席・学力状況を把握し、中学校や保護者との連携により中退防止に努める。 ・学校教育自己診断の保護者コメントやPTA、１年担任の保護者面談からの意見聴取を踏まえ、課題点を解決していく。 ・学校教育自己診断の保護者コメントやPTA、各学年担任の保護者面談からの意見聴取を踏まえ、課題点を解決していく。</div> <div>ア・様々な機会を通じて生徒に今工の良さを啓発し、プライドと誇りを養う。  ・授業で課題等を提供し、授業以外での学習時間を継続的に行う習慣を身に付けさせる。  ・職業教育の充実を図り、成功体験を醸成するため、資格取得の推奨を図る。</div> <div>イ・自身の適性を図るためのテストを実施し、進路選択に役立てる。 ・進路実現を図るため、生徒にきめ細かな進路情報を提供する。  ・自身の適性を踏まえ、企業情報を基に就職試験を合格するための努力を促す。 ・卒業時には、３年生全員が進路実現を図れるよう指導する。</div> <div>ウ・就職希望者には、卒業３年後の離職率調査を踏まえ、企業選択の指導を行う。</div>	<div>ア・生徒向け学校教育自己診断結果の「いじめ対応」への肯定率88%[85.6%] ・生徒向け学校教育自己診断結果の「相談できる先生」への肯定率60%[59.2%] ・生徒向け学校教育自己診断結果の「学校生活満足度」への肯定率91%[86.2%] イ・生徒向け学校教育自己診断結果の「人権を学ぶ機会」への肯定率85%[82.6%] ウ・生徒向け学校教育自己診断結果の「校内ルールの厳守」への肯定率94%[91.4%] ・生徒向け学校教育自己診断結果の「あいさつの励行」への肯定率97%[94.8%] ・遅刻件数420件[448件]  ・中退率0.5%[1.03%]  ・保護者向け学校教育自己診断結果の「今工への入学」への肯定率96%[96.9%] ・保護者向け学校教育自己診断結果の「保護者の願いにこたえる」への肯定率92%[91.3%]</div> <div>ア・生徒向け学校教育自己診断結果の「今工生としての誇り」への肯定率80%[73.0%] ・生徒向け学校教育自己診断結果の「授業以外で１時間以上の学習時間」の生徒24%[19.9%] ・資格取得総数550件[543件]</div> <div>イ・３年SPIテスト総合点63点[63.5点] ・生徒向け学校教育自己診断結果の「進路情報連絡」への肯定率94%[91.2%] ・就職一次内定率85%以上[91.1%]  ・進路実現度（就職率・進学率）100%[98.0%(99.3%・94.8%)] ウ・離職率(H31.3卒)25%以下[20.4%]</div>	
3 安全安心で魅力ある学校づくり	<div>（１）工科高校の魅力発信と志願者確保 ア 広報活動</div> <div>イ 工科高校の魅力発信</div> <div>ウ 入学者選抜の志願者確保</div> <div>（２）部活動を含む大会での上位入賞 ア 部活動加入の推奨 イ 課題研究・部活動等の上位入賞</div>	<div>ア・出前授業・地域連携等の広報活動を行い、工科高校の良さをPRする。</div> <div>イ・生徒が出身中学校へ訪問し、学校PRを行う。 ・３年間の入試受験実績を基に、中学校を訪問し、学校PRを行う。 ・中学校や地区別での学校説明会に参加し、学校PRを行う。 ・生徒に学校環境の維持・改善を図る５Ｓを指導し、学校美化に努めさせる。  ・教職員に職場環境の維持・改善を図る５Ｓを推進し、学校美化を指導させる。</div> <div>ウ・上記ア、イの取組みを図り、入学者選抜の志願者倍率を確保する。</div> <div>ア・新入生にクラブ説明会を実施し、体験期間を設け、１年担任からも加入を推奨させる。</div> <div>イ・課題研究や部活動等で近畿大会や全国大会に出品・出場して上位入賞をめざす。</div>	<div>ア・出前授業・地域連携等の回数11回以上[14回]</div> <div>イ・出身中学校訪問30名[25名] ・教員中学校訪問50校[34校]  ・学校説明会の参加30回[34回]  ・生徒向け学校教育自己診断結果の「校内清掃」への肯定率84%[83.1%] ・教員向け学校教育自己診断結果の「校内清掃」への肯定率84%[83.3%] ウ・全体の志願倍率１倍以上[0.96倍]</div> <div>ア・部活動加入率58%[57.7%]</div> <div>イ・様々な大会での上位入賞６入賞[６入賞]</div>	

	(3) 保護者の要望を踏まえた改善	・PTA や保護者からの要望を踏まえ、改善を図る。	・保護者向け学校教育自己診断結果の「必要な情報を提供している」への肯定率 80%[未実施]	
4 働き方改革の推進	(1) ストレスチェック結果を踏まえた改善  (2) 生徒・教職員の健康管理体制の充実	・ストレスチェック結果を踏まえて安全衛生委員会で議論し改善を図る。  ・安全衛生委員会の議論と教員の働き改革を踏まえ、在校等時間外月 80 時間以上の教職員の縮減を図る。 ・平均在校等時間外年 360 時間以内に抑制する。	・仕事の量的負担・コントロール度、職場のサポート、総合健康リスクを基準値 (100、100、100) 以下[99、100、99]  ・在校等時間外月 80 時間以上を 8 名以内[9 名]  ・平均在校等時間外年 360 時間以内[334.3 時間]	